



中央
の
心

5
2
3
唯洋鑛山専門學校の歌

兒玉花外

十一
969

北日本きたにほんの夏なつの威いある太陽たいやうの
野のい制帽せいぼうは一線いっせん入いつ左金線さきんせんが

華はなやかかにキラキラキラキラと見みつてぬる
あれは鑛山こうざん専門せんもん校がうの治済ちさいな學生がくせいだと
夏の緑なつのはろの風かぜが甜あま飛と自みづかと自みづかを戦たたかがす
若わかい肉體にくたいの血ちが旺わんに勤ごん操そうする。

小こ花工はなこう學がく士しを校長がうに載のき生徒せいとは二百名にひゃくめい
秋あき田鑛山たこうざん専門せんもん校がう！

東洋とうやう唯一えいいつの光榮こうえいある獨特どくたつの校堂がうだう
硬こう的てき思想しやうの權けん化け氣きなる青年せいねんの團だんよ
吾われは火ひの如ごとく祝福しゅくふく稱讚せうざんせん硬こう的てき剛健かうけんの群ぐんを。

鐵てつ槌づち双ふたつを組くみ合あせたる徽き立た甲がよ

鮮せん明めいな金きん色しきは男おとこ性せいの雄ゆう々々し若わか々々し
強きやうき力りきを表あらわ後ごして愛あいすべし紋いが浮うき
世よ界かいの大だい文ぶん家かイブセンの墓はか石いしには鐵てつ腕うで槌づちが浮うき

さ小こる
食たまで閑かん招たくせよ發はつ見けんせよ海うみ軍ぐんと思想しやうの領りやう域いき
摩あき黄わう金きんの心こころよ、天あま下か後ご世よに輝かが輝かがけよ。

周少岐